



第3回 リハビリ手帳普及事業案内 PT、OT、STアンケート結果

神奈川県

理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会

リハビリ手帳普及事業代表

アンケート内容

施設送付(モニタリング募集)

• 2023年06月～10月

モニタリング参加施設

• 2023年11月～

各士会 HP掲載

• 2023年11月～

各士会 SNS掲載

• 2023年12月～

各士会 会員送付資料

• 2024年02月～

※回答方法

• 全てWeb入力

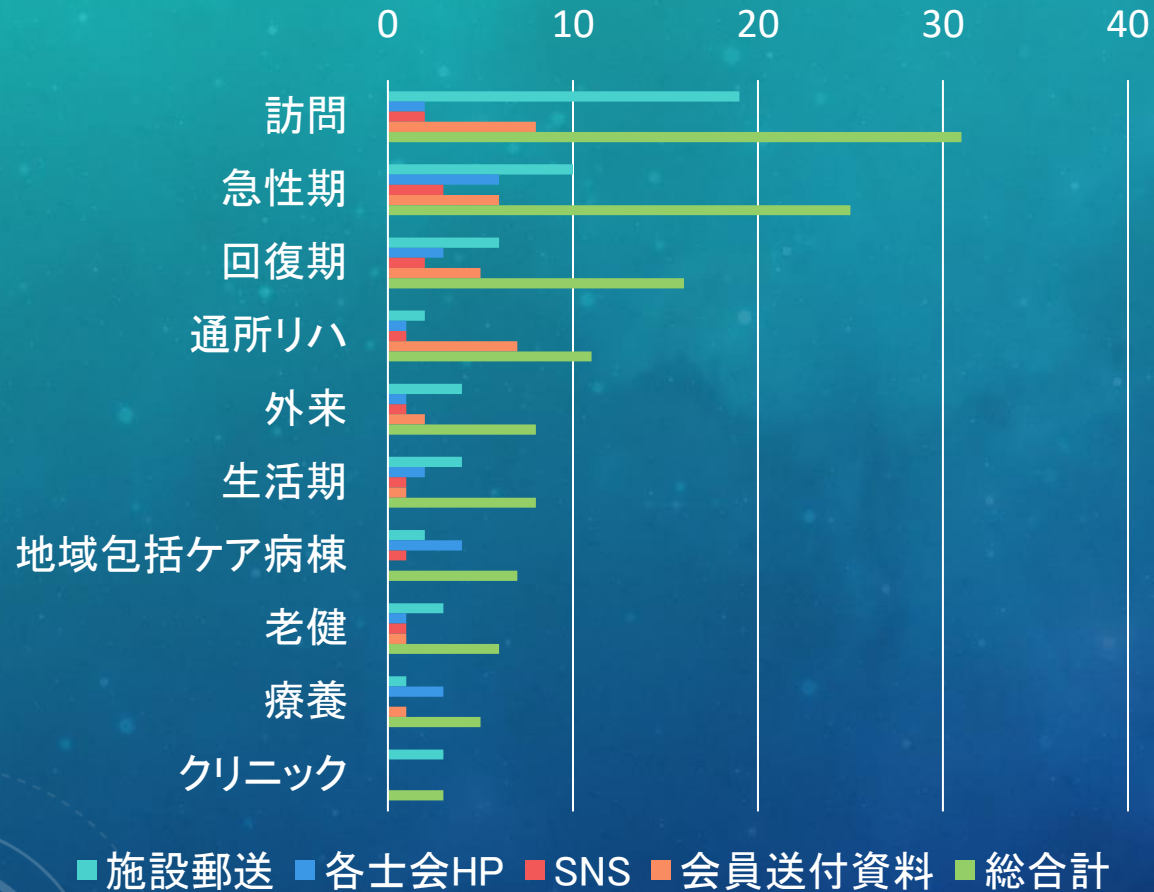
目次

- 所属施設
- 職種
- 経験年数
- リハビリ手帳について

サイズ、記載スペース、他職種の参考になるか、
理解できる内容か、必要、不要項目

- フリーコメント

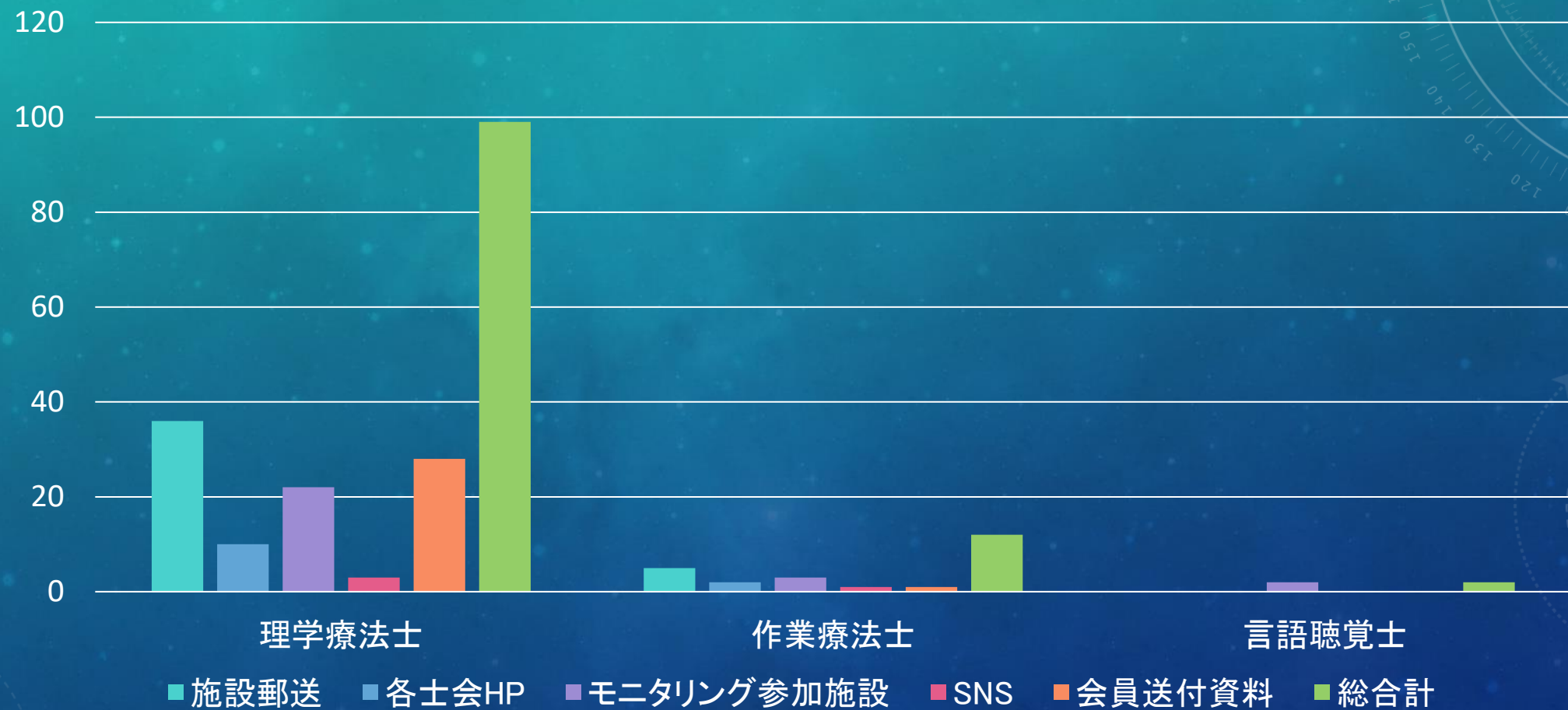
所属施設



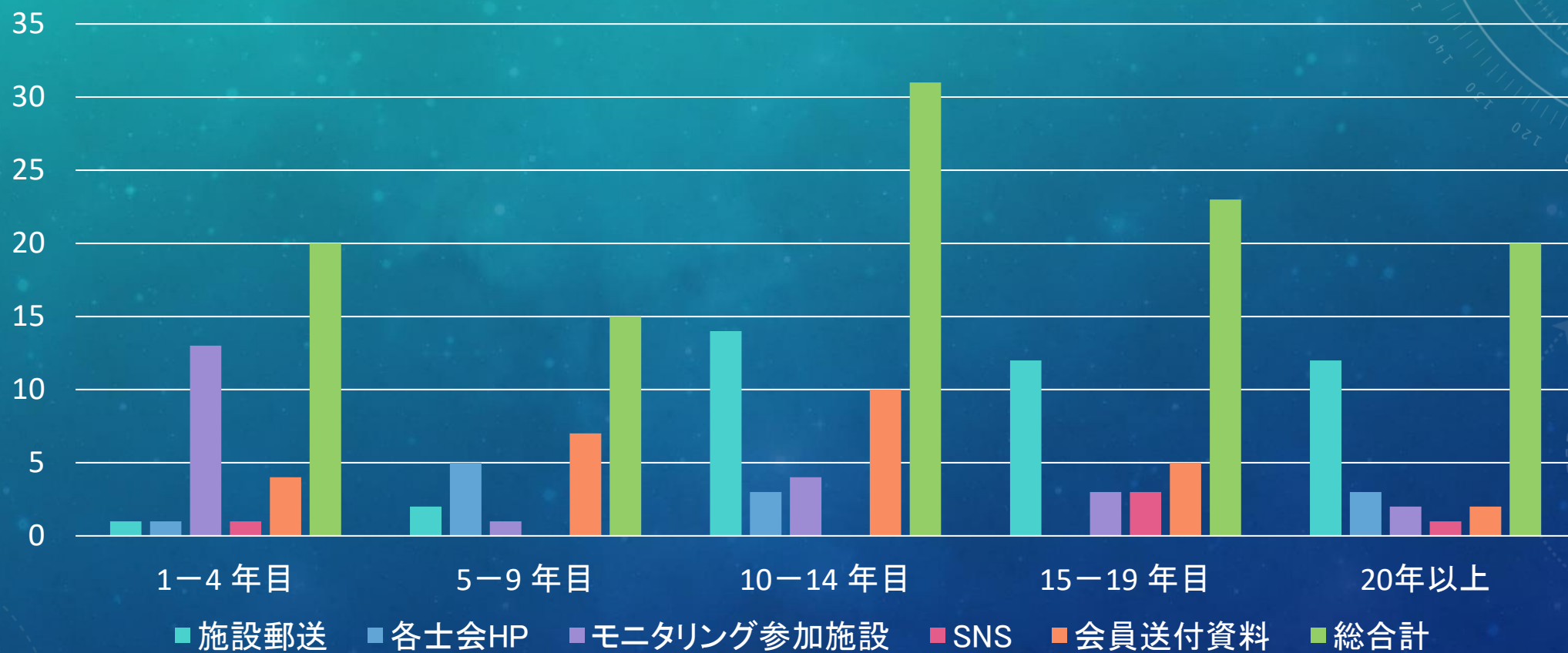
<以下、1施設の回答>

障害児者通所施設、地域密着型通所介護
小児総合病院、予防事業、通所介護
療養介護施設(旧重症心身障害児者施設)
地域支援事業、障害者病床、有料老人ホーム
障害福祉サービスの中の児童発達支援事業
重症心身障害児施設

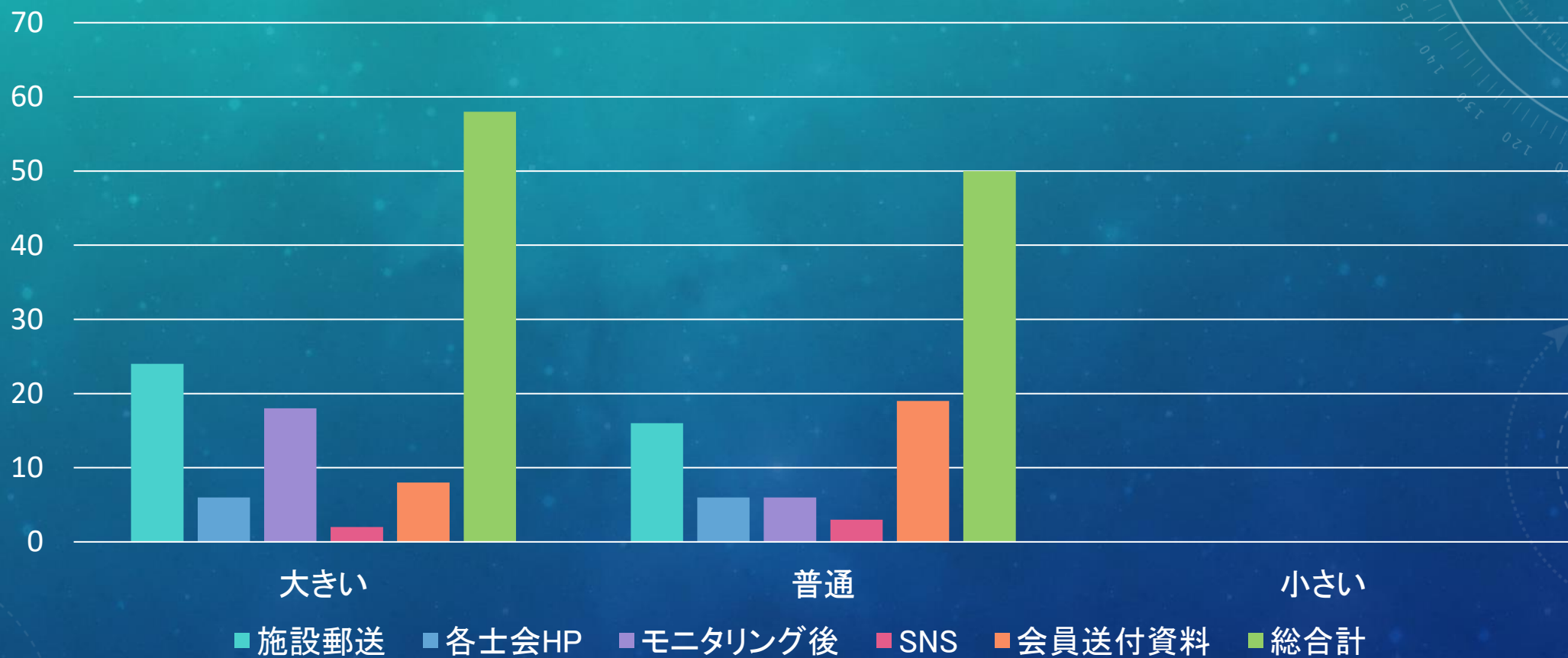
職種



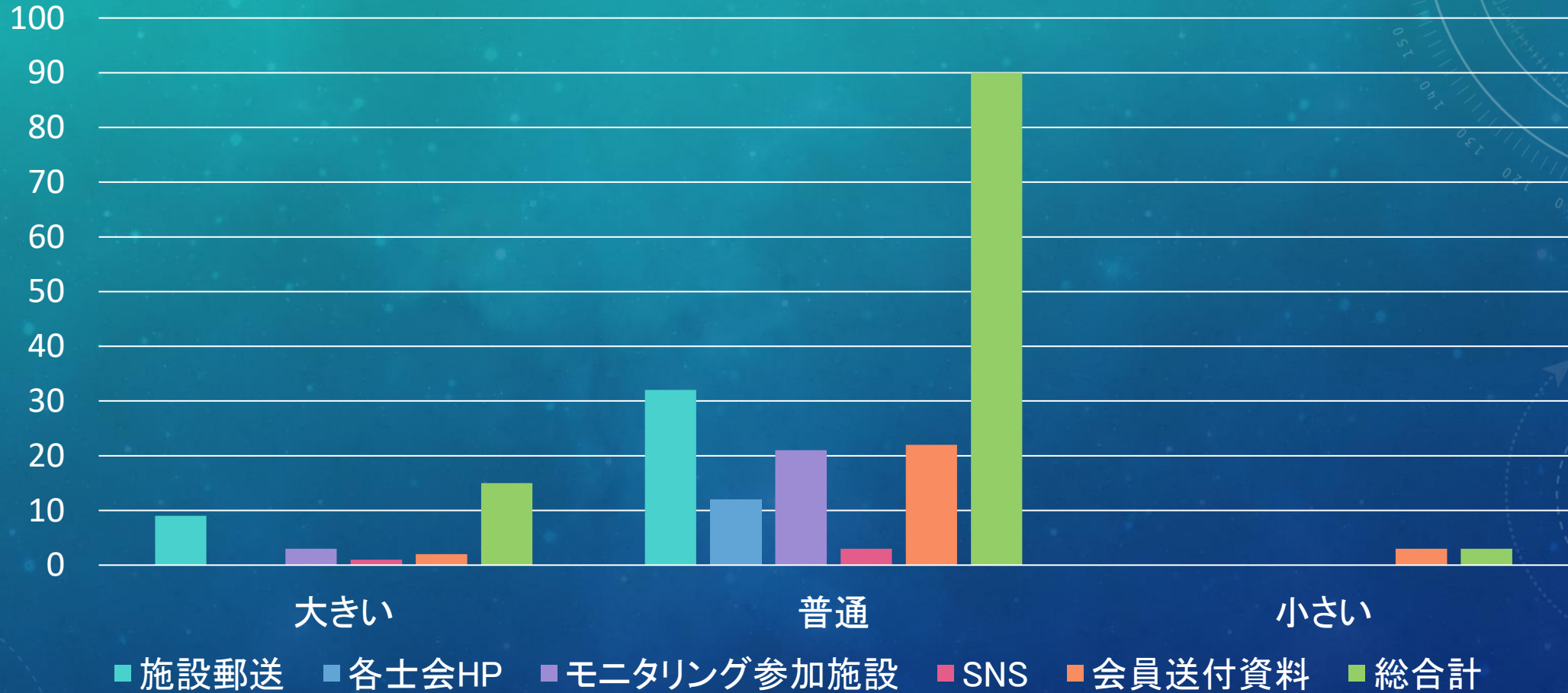
経験年数



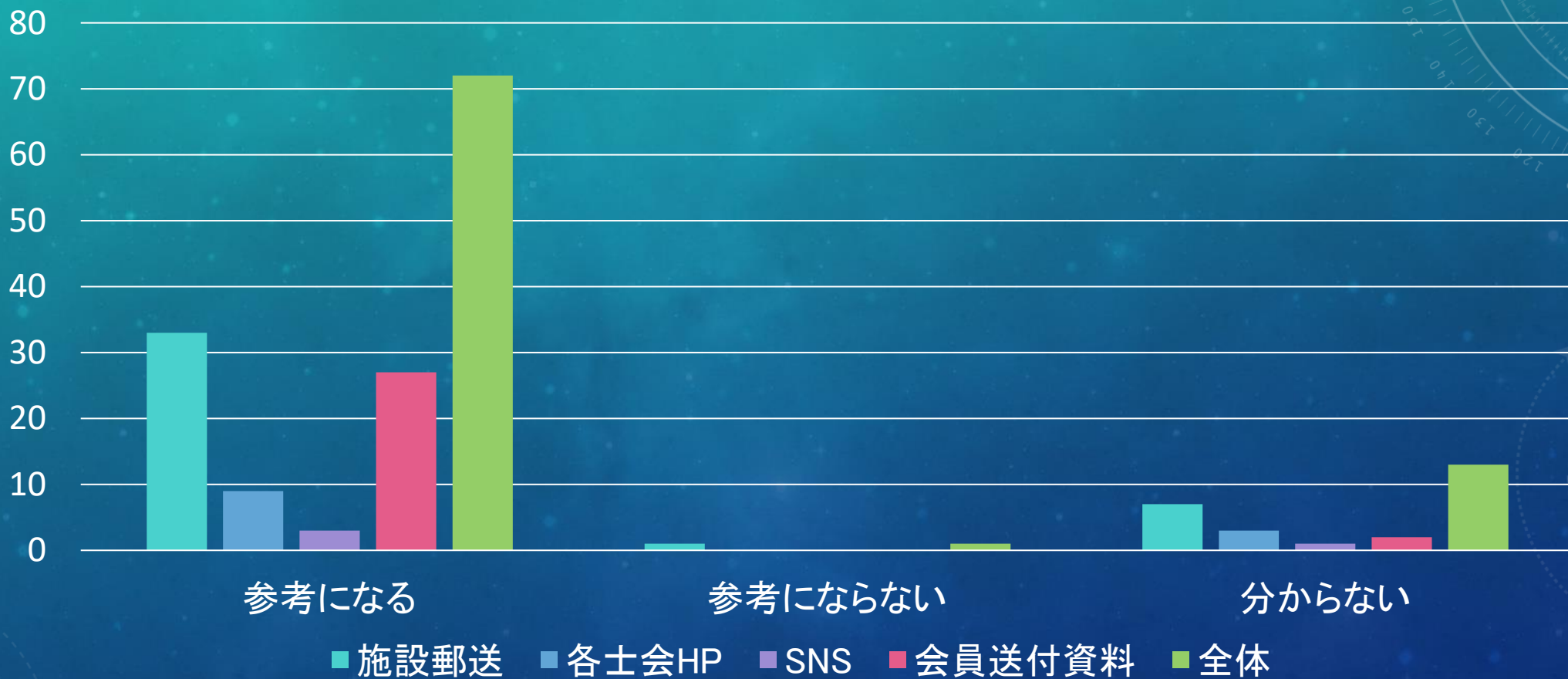
サイズについて



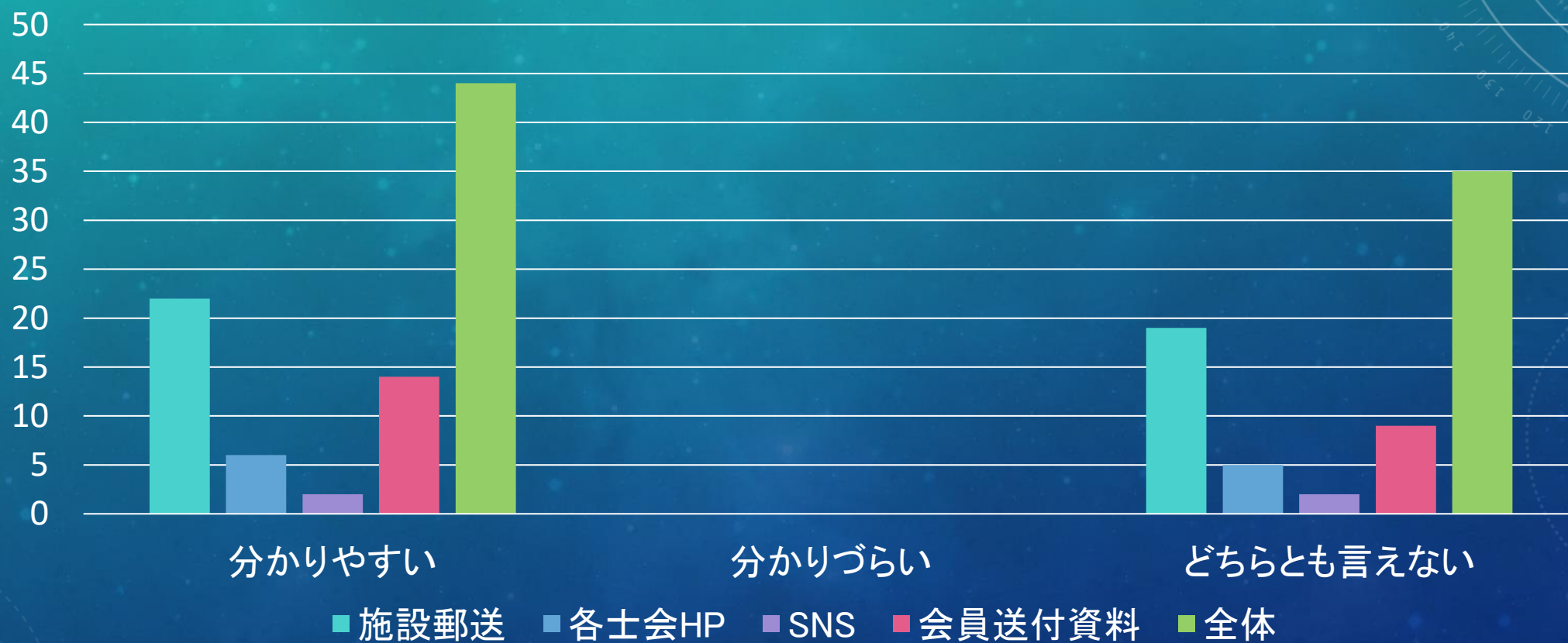
記載スペースについて



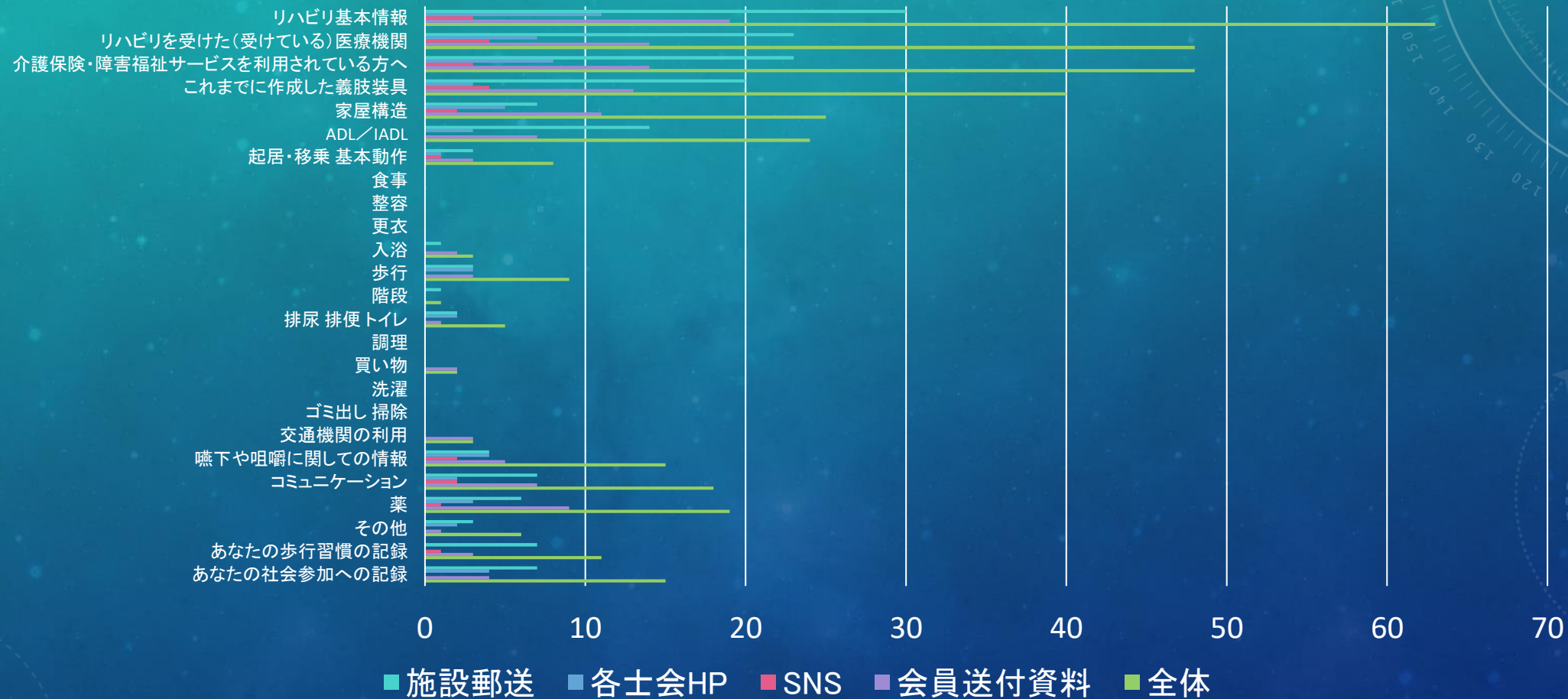
他職種の参考になるか



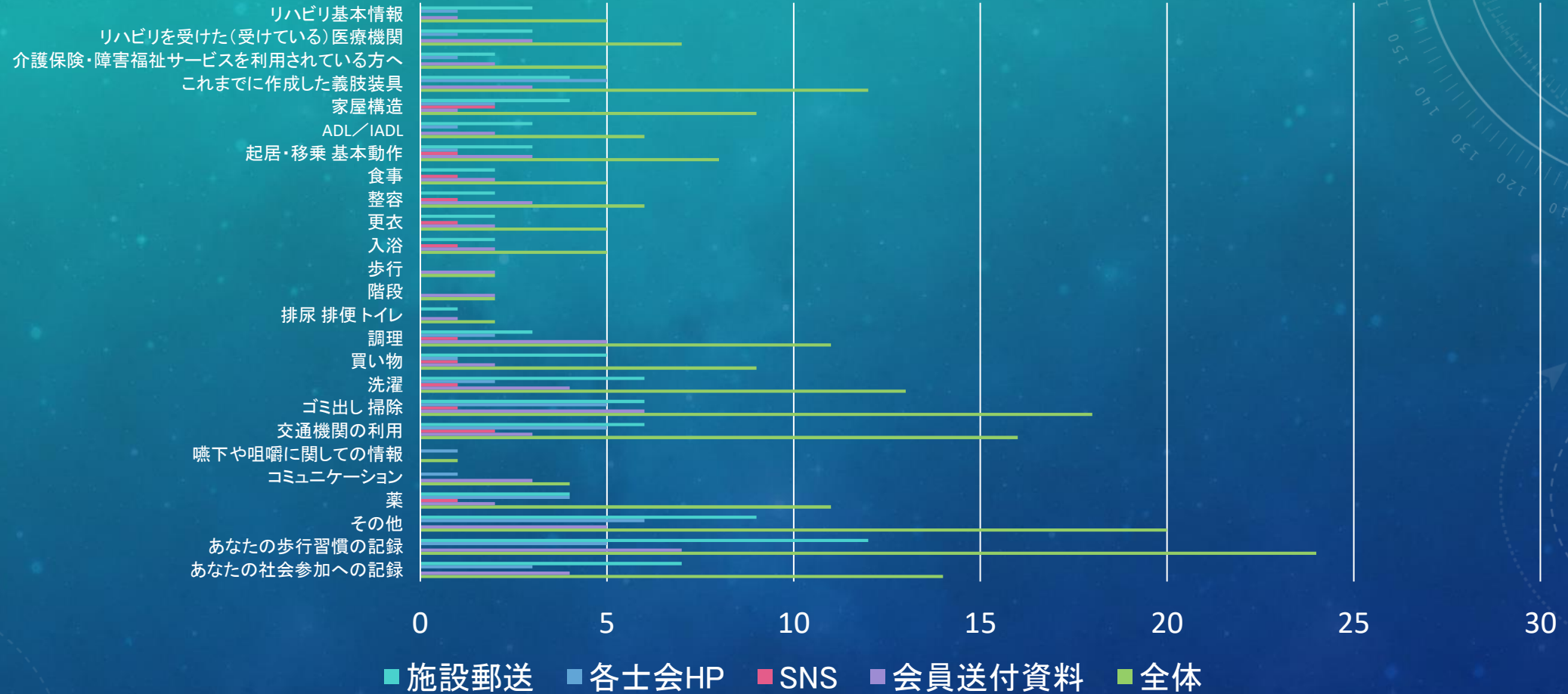
他職種が理解できる内容か



必要項目



不要項目



以下、フリーコメント

1-1) : 追加項目について

- 運動歴、職歴、1日の生活パターン、間取り図
- 社会的支援情報
- 理念や大切にしている価値などを記載する欄
- 家族構成
- 緊急連絡
- 既往歴、病歴、目標
- 手術日と手術式、病院名

回答

1-1) : 追加項目について

- 回答にある内容については記載しているページがありますが、分かりづらい表記部分があります。
- 今後、修正していきます。

1-2) : 追加項目

- 階段のページにエレベーター利用の可否、薬のページに服用の時間と単位
- 近くに支援してくれる家族がいるかどうか
- 申し送りのページがあると引継ぎがしやすいのではないか
- ペースメーカー挿入など、留置物のあるオペ記録
- 老健の加算取得情報
- 介護度も更新される為、変更された際に追記できるよう欄
- 取り巻く人間関係
- 小児版・障害福祉サービス版があるといい
- 転倒歴

回答

1-2) : 追加項目

- 回答にある内容については記載していません。
- 今後、追加するよう検討していきます。

2-1): 業務過多

- リハビリ歴を残せる事は有益に感じるが、その他はやや手間に感じる
- 個別性を理解しようとする試みはよいが、紙運用と業務過多が参加を躊躇する要因になる
- 記載項目が多く、業務内に記載することは難しい
- 項目が多く記入する負担が大きいと感じる
- 項目が多くスタッフの負担が大きい
- 項目が多すぎて、記載の負担がある
- 記載する内容が多く大変で負担感がある
- 内容が多岐に渡っていて良い部分があるが、記入するのが大変そう
- 書くところが多くて、面倒
- 記入が非常に面倒
- 手帳を記載することが少し負担に感じた

2-2) : 業務過多

- 業務が増加する
- 記載するのが、セラピストなら業務負担となる
- 書類ばかり増えて、臨床現場の状況を考慮すべき
- 働き方改革やタスクシフトが重要な時代の中で、手間に感じてしまうスタッフも多いのではないかと感じる
- 自由記載の項目も多く、それも記入する負担を多くしてしまう要因になっている
- 基本情報や今までの事など全て書き出すのは非常に負担で、全て専門職サイドで一から調べるとなると、業務負担だけが増えてしまう
- リハ手帳を使うことでリハビリテーションの質が高まり、将来的に診療報酬等に反映されるなら頑張れるが、ただのサービスではちょっと導入しようとは思えない
- 急性期だと人数が多くとても負担に感じ長続きしない
- セラピストの記入欄が多く、特に急性期～回復期病院における業務負担が増えることが予想される
- 看護師に聞かないといけない項目もありセラピストが全て記入するのは大変かつ時間を使う

回答

2) : 業務過多

- 使用に対して、記載する作業時間が多くなるという意見が多く聞かれております。
- 次の情報量が多い意見と同様ですが、使用目的や使用方法を伝えられていないことが要因と考えております。
- 今後、案内で説明させていただきます。

フリーコメント

3-1) : 情報量が多い

- 情報量が多すぎる
- ボリュームが大きい印象がある
- 作成された手帳の内容はどれも必要になると思うが、量に圧倒されてしまう印象
- 設問数が多すぎる印象
- 記載項目が多すぎる
- 情報量が多すぎて何が最新の情報がわかりにくくなっている
- 記載項目が多く、書き手・読み手の負担が大きい
- ページが多いので、書くのも見るのも、コピーしてカルテに挟むのも大変かと感じる
- 書く欄が多すぎる。書く側が大変
- ページ数が多く、大変
- どのように記入していくのかが問題になるかと思う。患者本人に任せる形だと量が多い

回答

3) : 情報量が多い

- 全体として情報量が多いという意見が多く聞かれております。
- 前の業務過多の意見と同様ですが、使用目的や使用方法を伝えられていないことが要因と考えております。
- 今後、案内で説明させていただきます。

フリーコメント

4-1): 使用目的・使用方法が分からない

- 目的が見えない
- 医療介護連携ツールを想定しているなら主旨説明書が欲しい
- 既にいろんな書類と時間に追われている中、急性期では、どこまで重要と思ってもらえるか不安
- 具体的にどのような方を対象にすべきなのか？
- 目的が患者様なのか各セラピストに向けてなのか分かれると言葉選びがしやすい
- 誰が書くのか？介護保険の認定調査の項目とかなり重なっている部分があるため、連携と言うより二度手間な気がする
- 誰がどこまで記載するのか知りたい

フリーコメント

4-2) : 使用目的・使用方法が分からない

- 運用の仕方が定まっておらず、尚且つ他職種への説明も乏しかったため、スムーズな運用が難しかった
- どのくらいの頻度で再記入をしたら良いのか、わからない
- 記載のタイミングが定まっておらずいつ記載すれば良いか分かりにくい
- 今後どのように活用していくのか具体的でないため不明だが、リハビリサマリーなどを今後廃止することを前提にこの手帳を考えているのなら理解できる
- freeコメントの記載例が欲しい
- 記載例がなく、項目をどのように使用すれば良いかわからない点もあり、誰も見ても、使用出来るような工夫が必要

回答

4) : 使用目的・使用方法が分からない

- 使用目的については、第2回 リハビリ手帳普及事業案内にてお伝えしておりますので、確認お願い致します。
- 使用方法については、明確な方法または具体例を伝えられていないことが要因と考えております。
- 今後、案内で説明させていただきます。

フリーコメント

5-1): 表記の簡略化

- 出来るだけ簡素化したほうが実用的になる
- もう少し簡易に取り組める原紙
- もう少し簡略化できるとよい
- もう少し簡素化してもいい
- もっと単純で明解な形が良い
- 手書きよりもパソコンで記載して、印刷できると少し容易になる
- 実際に運用する際、PDF化するなどの記入作業の簡略化
- 全て記入の場合、やや負担が大きい。もう少し簡素化した方がよい
- 他部門と共同で行うので、出来るだけ簡略した形がよい

回答

5) : 表記の簡略化

- 今後、簡略化するよう検討していきます。
- また、使用方法とも関係しますが、記載方法やパソコン入力などの説明も、今後おこなっていきます。

フリーコメント

6): サイズが大きい

- 大きすぎる
- サイズが大きい
- 大きく、書く側が大変
- サイズが大きく携帯できず、急な入院先に繋がられない
- 手帳その物のサイズのコンパクト化
- 小さいサイズだと運用しやすいと思う
- 患者様が持ち運ぶツールとしては大きく、お薬手帳サイズが適切な望ましいと思う

回答

6) : サイズが大きい

- サイズについては、ファイリング方法などと検討して参りました。
- 今後、案内で説明させていただきます。

フリーコメント

7): 使用困難な分野

- 小児に対応している施設なので、この内容だと小児の実情と合わない
- 外来患者様に実施した時、日常生活動作において解決していることが多く、リハビリ手帳を使用して新たな問題点、改善策立案には至らない
- 専門用語や略語は使用せずに、一般の方に分かる内容にすることが難しい。
- もっと実用性の高いものにした方が良い。
- 認知機能の低下がある患者様には自己記載ができないため時間がさけず使用できない。

回答

7) : 使用困難な分野

- 今後、使用ができる内容を検討していきます。

フリーコメント

8) : 管理が困難

- 介護保険証、負担割合証などの管理ができない高齢者、高齢者世帯・独居世帯、業務が煩雑なCM等という現状において、活用は現実的ではない
- 使用される方やご家族などが、作成・管理するのが大変になるのではないかとも思う
- 記載するのが、本人(家族)ならわからず空白が目立つ(=活用しにくい)結果になる
- 本人任せでは正確な情報が手に入るとは思えない
- 記載が面倒くさいと感じると、適当にチェックをつけるだけになってしまい、結局現実にそぐわない内容となるため誰も参考にしなくなってしまう
- サービス提供中になかなか時間を取れない状況でリハビリ手帳の内容に目を通したり記入したりという作業が難しい
- 多すぎて管理は難しい
- 家屋情報・家族情報等は、患者本人がリハ手帳紛失し、万が一、犯罪組織に渡った際、空き巣・強盗・特殊詐欺等の犯罪に活用できてしまうので、記載欄自体、作ってはいけないと思う

回答

8) : 管理が困難

- 管理については、第2回 リハビリ手帳普及事業案内にてお伝えしておりますので、確認お願い致します。
- 使用方法について、案内にて説明させていただきます。

フリーコメント

9-1): 使用推奨

- 介護と医療での情報共有の行いにくさに悩んでいたため、非常にありがたい
- 介護保険事業所への情報伝達として有効
- 途切れのないリハビリには有効
- 欲しい情報が網羅されていて、利用者さんの生活を、しっかり考えたい時には役立ちそう
- 外来リハビリを実施する中で治療時間以外の5分程度、リハビリ手帳を使用した。とても良いツールではある
- 横浜市青葉区にはイエローノートという、在宅療養者の救急時や災害時に医療・介護の連携の一助とする情報共有ツールがあり、リハビリ手帳が運用されたら青葉区では「イエローノートのリハビリバージョン」という印象になる
- 横浜市や他の各自治体でもオンラインの情報共有ツールの開発、運用が進められているが、紙媒体の”直感的に見たい箇所をすぐに開ける、現物が手元にある”という安心感も、特に年配の利用者やサービス提供者には必要かと思う
- リハ手帳のような“もの”があることでサービス提供者側も「情報共有しなきゃ」という気持ちになると思う
- 実習生・新人教育に良い教材と感じる。情報収集のわからない実習生・新人は、項目を埋めていくことで患者情報収集が概ねできるため。また指導者もどこが足りていないか把握しやすい

回答

9) : 使用推奨

- 情報伝達ツールや教育ツールとして使用可能な意見もございました。

フリーコメント

10): 患者様意見

- 使用に同意書は不要。モニタリングでは同意書がネックで手帳仕様に至らなかった方がいた
- 個人情報を多く記載するため、患者様の受け入れがあまり良くないことが多かった
- 記入欄が多いのと誰が記入するのか
- 意味あるの？これ
- これをもってどうすればいいの？
- 記載項目が多い
- こういうものがあるとすごく楽
- 記入するのが面倒
- 患者様がリハビリ手帳を見た時の一言目は、「大きいね」「これを私が持ち運ぶの？」と発言あり

回答

10): 患者様意見

- 使用方法とも関係しますが、検討をして参ります。

フリーコメント

11-1): 使用方法の提案

- 報酬改定に合わせ、各職種のアセスメントシートや個別機能計画書の書式に合わせて、必要最低限かつ同じ場所に記載できる方式が良い
- 介護保険だと、ケアマネから頂く情報と重複する部分がとても多い、特にADL面、IADL面、家屋情報
- LIFE加算に役立つものなら活用したい
- セラピストが記載する時間を考慮すると、出来るだけフリースペースは無くした方が良い
- 項目によってはセラピスト以外の記載(家族など)を検討してほしい
- 手書き以外に方法を検討してほしい
- 使いたいところのみ使うようにできると良い
- 地域で各関係各所と合わせて作成していけるのが良いと思う
- 3職種が使うことを想定すると項目が多くなると思うが、使用者本人・リハビリ担当者がお互い負担に感じない程度がよい
- リハビリの内容やADLはリハビリでの記載でもいいが、生活レベルの話は本人に記載してもらおう
- 患者様や利用者様に記載してもらおうなら、情報量を厳選してもよい

フリーコメント

11-2): 使用方法の提案

- 手書きよりもパソコン入力により手間が少なく、状態に応じたテンプレートの準備も可能であるため、Excel等の雛形を協会ホームページでダウンロードできると良い
- 印刷し、患者さんご自身でリハビリ手帳に貼り付けられるようにサイズ調整してであると尚良い。
- 急性期は患者さんの入り口となるが、それどころでないという場合も多いので、何度も通過する施設の認識で、患者さん、家族から声をかけられれば、参照や追加記載ができる

フリーコメント

11-3): 使用方法の提案

- 在宅で訪問サービスや通所施設、外来でのリハビリなどを併用されるケースなどで通常は特にサマリーなど横の情報共有の手段が確立されていない場合に、各施設のリハビリ職の情報共有、目標のすり合わせに活用できると思います。
- 急性期から回復期転院時や、回復期から在宅への引き継ぎにできるとよさそう
- サービス担当者会議や連絡帳がうまく活用されていない場合やご希望のある方がご利用になれるといいと思う

回答

11): 使用方法の提案

- 頂いたご意見を参考にして検討をして参ります。

フリーコメント

12): 施設間連絡票(サマリー)を使用する提案

- 施設間サマリーで情報共有は事足りる
- 診療情報提供書などの書類があるため必要はないと思う
- 施設間連絡票へも記載しないといけないため二度手間となってしまう
- 評価や計画書、LIFEなど項目が重なり、説明や記入の負担が増す
- サマリー添付で時短図れないか?
- 普及することでリハビリサマリーの代わりになるのであれば、負担も減る
- 急性期の場合は転院の時に記入して渡せば良いが、書く場所を限局してもらえると負担が少ないと感じる
- サマリーも含めてこの手帳を活用しようと考えているのならば、現場の状況を考えていない
- 今後どのように活用していくのか具体的でないため不明だが、リハビリサマリーなどを今後廃止することをマイナンバーカードに医療保険を連携しているのならば、その情報にリハビリ経歴やサマリーの過去のコピーなどを連携させるようにして、電子化を図るなどなど、効率化を図る方法を考えて欲しい

回答

12) : 施設間連絡票(サマリー)を使用する提案

- 施設間連絡票(サマリー)とリハビリ手帳の違いについては、第1回 リハビリ手帳普及事業案内にてお伝えしておりますので、確認お願い致します。

フリーコメント

13-1): 内容修正

- ADLとそれぞれの下位項目について、項目によって時系列が縦だったり横だったり見にくいので、可能な限りフォーマットを揃えてほしい
- ADL下位項目のページのタイトルと絵について、冊子にするとセンタリングされるように中央からずれているのか、センタリングされていないのか
- 表の線がすべて同じ太さで境目がわかりにくいのでもう少し視覚的に構造化してほしい
- 記載の際の注意書きが、一般の方となっているので、ご本人やご家族などの表現の方がよいのではないか
- 介護保険で知りたい情報は、義肢装具のことや、疾患名、リハビリを受けた医療機関名、リハビリ中止基準、服薬情報
- 必要最低限の項目にするべき
- 過去のリハビリ経歴を知ったところで、結局は今の目の前にいる患者の状態をみてアプローチすることが仕事である。記載されていても読む気にならない
- 選択項目に代えられる部分は変更する
- もっと実用性の高いものにした方がよい

フリーコメント

13-2): 内容修正

- リハビリ手帳を長期間使用するのであれば、ADLは状態によって変化する可能性があるため、ページが増えてみづらくなる。一枚にADLをまとめた用紙を別紙でつけて、利用する事業所が変更される際にコピーしてサマリーとして使用するとわかりやすい
- 家屋構造も最終的にはどこの事業所も見られる機会があるので、なくてもいい
- 薬はお薬手帳を持ってきてもらえれば良いので、なくてもいい

回答

13): 内容修正

- 頂いたご意見を参考にして検討をして参ります。

次回以降予定

- 他職種アンケート結果報告
- サイズ、ファイリング方法、印刷等の説明
- 使用方法(基本セット、必要項目選択、ダウンロード、印刷、PC入力)の説明
- 意見対しての修正内容説明
- 使用例提示

上記を、ご説明させていただきます。